Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 18第49号
2019年（平成31年） 3月29日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電話 （03）3534-7411（代）
FAX （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

3/14~3/20のNYMEX・WTIは、58.52～59.83ドルの範囲で推移した。

3月21日は、前日の高値への警戒感やポジション調整の売り、ドル高・ユーロ安に伴う割高感から、下落した。ただ、OPEC・非加盟主要産油国による協調減産の順調な実施が下値を支えた。この日から中心限月となった5月限終値は前日比0.25ドル安の59.98ドル。

週末22日は、米国株価の暴落、景気後退の前兆とされる長短金利逆転や独仏の製造業景況指数の弱さ等世界経済の先行き不安の高まりから続落した。ただ、ベーカーヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数は824基（前週比9基減）と5週連続減少となった。5月限終値は前日比0.94ドル安の59.04ドル。

週明け25日は、先週末以来の世界的な景気後退懸念から、3営業日続落した。ただ、ドル安・ユーロ高の進行に伴う割安感が下値を支えた。5月限終値は前週末比0.22ドル安の58.82ドル。

26日は、米株価の回復等景気後退懸念の後退やOPEC等の減産への期待感、翌日発表予定の米国在庫週報の取り崩し観測などから、大幅に反発した。5月限終値は前日比1.12ドル高の59.94ドル。

27日は、EIA在庫週報で、米国原油在庫が前週比280万バレル増と市場予想に反する積み増しとなったことから、国内供給過剰感が再燃し、反落した。5月限終値は前日比0.53ドル安の59.41ドル。

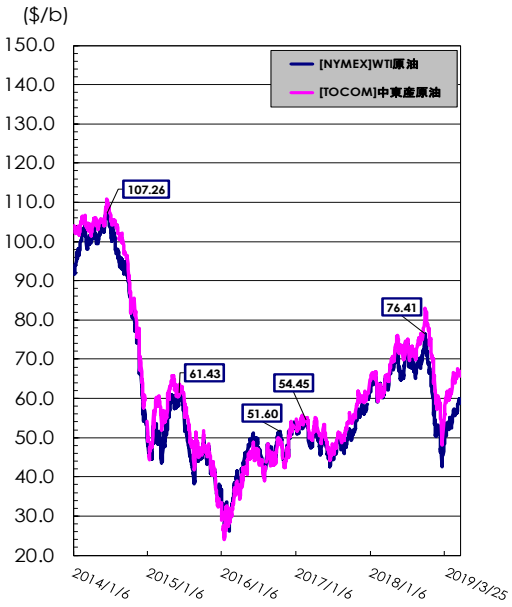
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（4月渡し）は3月14日～20日の間67.30～68.00ドルの範囲で推移した。3月22日67.60ドル、25日66.40ドル、26日66.80ドル、27日67.40ドルで推移した。

為替は3月14日～20日の間111.29～111.94円の範囲で推移した。3月22日110.70円、25日109.91円、26日110.21円、27日110.53円で推移した。

財務省が28日発表した貿易統計（速報・旬間）によると、3月上旬の原油輸入平均CIF価格は、44,440円/klで、前旬比1,106円高、ドル建ては63.82ドルで前旬比1.37ドル高。為替レートは1ドル/110.71円だった。

そのような中で、3月25日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.3円の値上がり、軽油も同0.3円の値上がり、灯油も同3円の値上がり（18㍑ベース）だった。ガソリン、軽油、灯油ともに6週連続の値上がりだった。この週（3月第4週）の原油コストはわずかに値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社据え置きとなった。

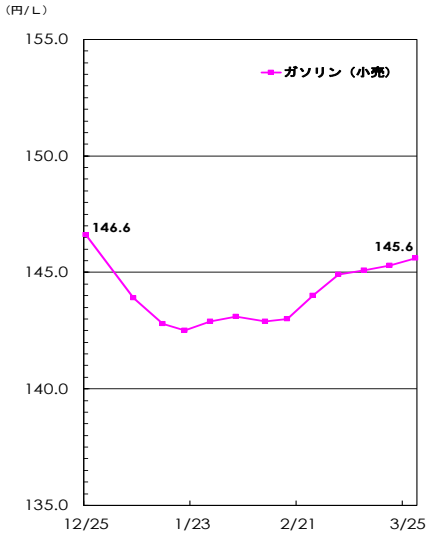
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	3/17 ～ 3/23	3,509	▼ -54	▼ －
需給	トッパー稼働率	（%）	〃	89.6	▼ -1.4	▼ －
需給	原油在庫量	（千kl）	3/23	11,786	▼ -1,271	▼ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	3/25	65.61	▼ -1.10	▼ -0.5
価格	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	3/25	58.82	▼ -0.27	▼ -6.7
価格	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	3月上旬	63.82	▲ 1.37	▼ -2.97
価格	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	44,440	▲ 1,106	▼ -324
価格	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	110.71	▼ -0.41	▼ -4.15
価格	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	3/25	110.91	▲ 1.67	▼ -4.91



（単位：千kl、円/㌔）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		3/17 ～ 3/23	978	▼ -17	▲ －
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	929	▲ 26	▼ －
	輸出		〃	60	▼ -49	▼ －
	在庫		3/23	1,609	▼ -12	▲ －
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	3/19 ～ 3/25	60.3	▲ 0.6	▲ 2.5
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/19 ～ 3/25	57.6	▲ 0.5	▲ 0.4
		(TOCOM/中部)	3/25	60.5	▲ 1.0	▲ 2.0
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	3/25	145.6	▲ 0.3	▲ 2.4

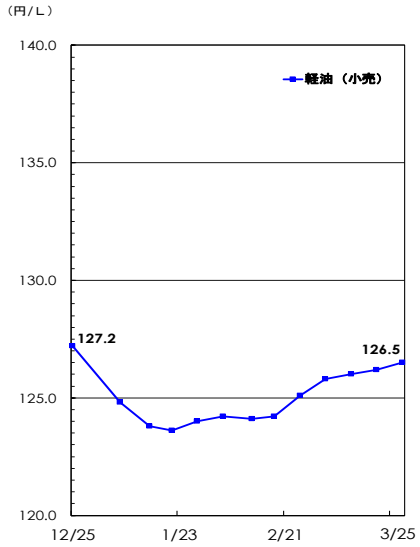
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㌔）

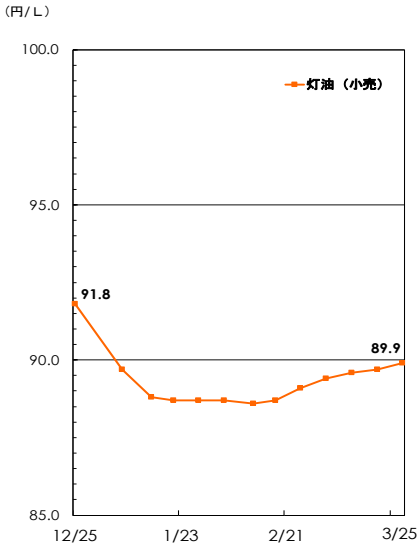
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		3/17 ～ 3/23	824	▲ 13	▲ －
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	529	▼ -137	▼ －
	輸出		〃	216	▲ 48	▲ －
	在庫		3/23	1,588	▲ 79	▲ －
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	3/19 ～ 3/25	64.3	▲ 0.9	▲ 5.5
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/19 ～ 3/25	64.7	▲ 0.1	▲ 2.7
		(TOCOM/中部)	3/25	－	－	－
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	3/25	126.5	▲ 0.3	▲ 4.6

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㌔）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		3/17 ～ 3/23	292	▲ 36	▼ －
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	401	▲ 87	▲ －
	輸出		〃	0	➡ 0	➡ －
	在庫		3/23	1,331	▼ -109	▼ －
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	3/19 ～ 3/25	63.5	▲ 0.8	▲ 1.9
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/19 ～ 3/25	62.7	▼ -0.2	▲ 3.3
		(TOCOM/中部)	3/25	62.5	▼ -1.1	▲ 4.0
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	3/25	89.9	▲ 0.2	▲ 2.1



■ 関連情報

1　海外/原油

3月27日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油在庫が前週比280万バレル増と市場予想（前週比120万バレル減）に反して積み増しになったことから、反落した。ただ、ガソリンと中間留分の在庫が予想以上に減少したこと、さらに、最近週の米国産油量が前週比横ばいだったことが下値を支えた。なお、EIAは前日の報告で、2018年の米国産油量が46年ぶりに世界最大に返り咲いた旨公表した。5月限終値は前日比0.53ドル安の59.41ドル。6月限の終値は前日比0.49ドル安の59.61ドルだった。

EIAによると、3月25日時点のガソリンの小売価格は、前週比7.5セント値上がりの1ガロン2.623ドル（76.8円/㍑）、ディーゼルは同1.0セント値上がりの3.080ドル（90.1円/㍑）となった。ガソリンは7週連続の値上がり、ディーゼルは2週ぶりの値上がりだった。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2019年3月17日～3月23日に休止したトッパー能力は22.6万バレル/日で、前週に対して11.1万バレル/日増加した（全処理能力は351.9万バレル/日）。原油処理量は350.9万klと、前週に比べ5.4万kl減少。前年に対しては10.1万klの減少。トッパー稼働率は89.6%と前週に対して1.4ポイントの減少、前年に対しては2.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、C重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/1.7%減、ジェット/5.2%増、灯油/14.1%増、軽油/1.6%増、A重油/16.5%増、C重油/7.3%減。今週のC重油の輸入は2.9万kl（前週比2.6万kl増）。軽油の輸出は21.6万kl（前週比4.8万kl増）。

出荷（輸入分を除く）は、前週比では軽油、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではジェット、灯油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は92.9万 kl（対前週2.8%増）と前週比で2週振りで増加となり、12週連続で100万klを下回った。ジェット15.3万kl（対前週115.6%増）、灯油40.1万kl（対前週27.7%増）、軽油52.9万kl（対前週20.6%減）、A重油23.7万kl（対前週7.2%増）、C重油17.6万kl（対前週24.6%減）。

（単位：千KL）

	今週 (3/17 ~ 3/23)	前週 (3/10 ~ 3/16)	前週比	
ガソリン	929	903	▲ 26	(3%)
ジェット燃料	153	71	▲ 82	(115%)
灯油	401	314	▲ 87	(28%)
軽油	529	666	▼ -137	(-21%)
A重油	237	221	▲ 16	(7%)
C重油	176	234	▼ -58	(-25%)
合　計	2,425	2,409	▲ 16	(1%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

3月23日時点の在庫は、ジェット、軽油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェット、灯油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは160.9万kl、前週差1.2万kl減。前年に対しては2.9万kl多い。

灯油は133.1万kl、前週差10.9万kl減。前年に対しては6.6万kl少ない。

軽油は158.8万kl、前週差7.9万kl増。前年に対しては27.3万kl多い。

A重油は77.6万kl、前週差1.0万kl減。前年に対しては7.8万kl多い。

C重油は191.7万kl、前週差4.5万kl減。前年に対しては6.1万kl多い。

（単位：千KL）

	今週 (3/23)	前週 (3/16)	前週比	
ガソリン	1,609	1,621	▼ -12	(-1%)
ジェット燃料	908	868	▲ 40	(5%)
灯油	1,331	1,440	▼ -109	(-8%)
軽油	1,588	1,509	▲ 79	(5%)
A重油	776	786	▼ -10	(-1%)
C重油	1,917	1,962	▼ -45	(-2%)
合　計	8,129	8,186	▼ -57	(-0.7%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

3月19日から25日の原油価格は前週比でほぼ横ばいで、為替レートはわずかに円高で、原油コストはわずかに値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、3月19日～25日の間、ガソリン113～114円台で値上がり後ほぼ横ばい、軽油63～64円台で大きく値上がり後横ばい、灯油62～63円台で大きく値上がり後ほぼ横ばいで推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン114円台で値上がり、軽油65～66円台で値上がり後横ばい、灯油62～63円台で値上がり後値を戻して推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン110～111円台でほぼ横ばい後大きく値下がり、軽油64円台で値上がり、灯油61～63円台でやや値上がり後大きく値下がりして推移した。

次週の元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに全社据え置きとなった。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

今週の製品スポット市況は、海上・先物の灯油のわずかな値下がりを除き、他の油種・他の取引で、前週平均と比べ値上がりした。

4月第1週（3/28～4/3）適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格（3/19～3/25千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値）は、前週比で、ガソリンは0.6円の値上がり、灯油は0.8円の値上がり、軽油は0.9円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは0.4円の値上がり、灯油は0.1円の値下がり、軽油は0.8円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが0.5円の値上がり、灯油は0.2円の値下がり、軽油は0.1円の値上がりだった。

4月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社据え置きとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

（RIM）　（単位：円/㌔㍑）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週　(3/19 ~ 3/25)	前週　(3/12 ~ 3/18)	前週比
スポット価格	レギュラー	60.3	59.7	▲ 0.6
	灯油	63.5	62.7	▲ 0.8
	軽油	64.3	63.4	▲ 0.9

（TOCOM）　（単位：円/㌔㍑）

[期近物/終値] 〔平均〕		今週　(3/19 ~ 3/25)	前週　(3/12 ~ 3/18)	前週比
先物価格	レギュラー	57.6	57.1	▲ 0.5
	灯油	62.7	62.9	▼ -0.2
	軽油	64.7	64.6	▲ 0.1

※上記価格は税抜き価格

参考値　（3/19～3/25実績値）　（単位：円/㌔㍑）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.6	▲ 0.5	▲ 0.6
灯油	▲ 0.8	▼ -0.2	▲ 0.3
軽油	▲ 0.9	▲ 0.1	▲ 0.5
A重油	▲ 0.6		

（出所）現物：　RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：　TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

3月25日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円高の145.6円、軽油も同0.3円高の126.5円、灯油は18㌔㍑ベースで同3円高の1,618円（1㌔㍑ベースでは同0.2円高の89.9円）だった。ガソリン・軽油・灯油ともに6週連続の値上がりだった。都道府県別には、値上がりが33都道府県、横ばいが6府県、値下がりが8県だった。全国最安値は徳島県の138.3円（前週比0.1円安）、次が140.4円の岡山県（同0.1円高）と埼玉県（同0.2円高）、最高値は長崎県の157.8円（同0.5円高）であった。最も値上がりしたのは1.3円高の福岡県（147.0円）と愛知県（143.8円）、横ばいは高知県など6府県、最も値下がりしたのは0.8円安の宮城県（143.1円）だった。

先週の原油コストは値上がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに0.5～1.0円の値上げに分かれた。

今週は、原油価格はほぼ横ばい、為替レートは円高で、原油コストはわずかに値下がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社据え置きとなった。小売価格への転嫁が遅れていることから、次週（4月1日）のガソリン・灯油の小売価格は小幅な値上がりが予想される。

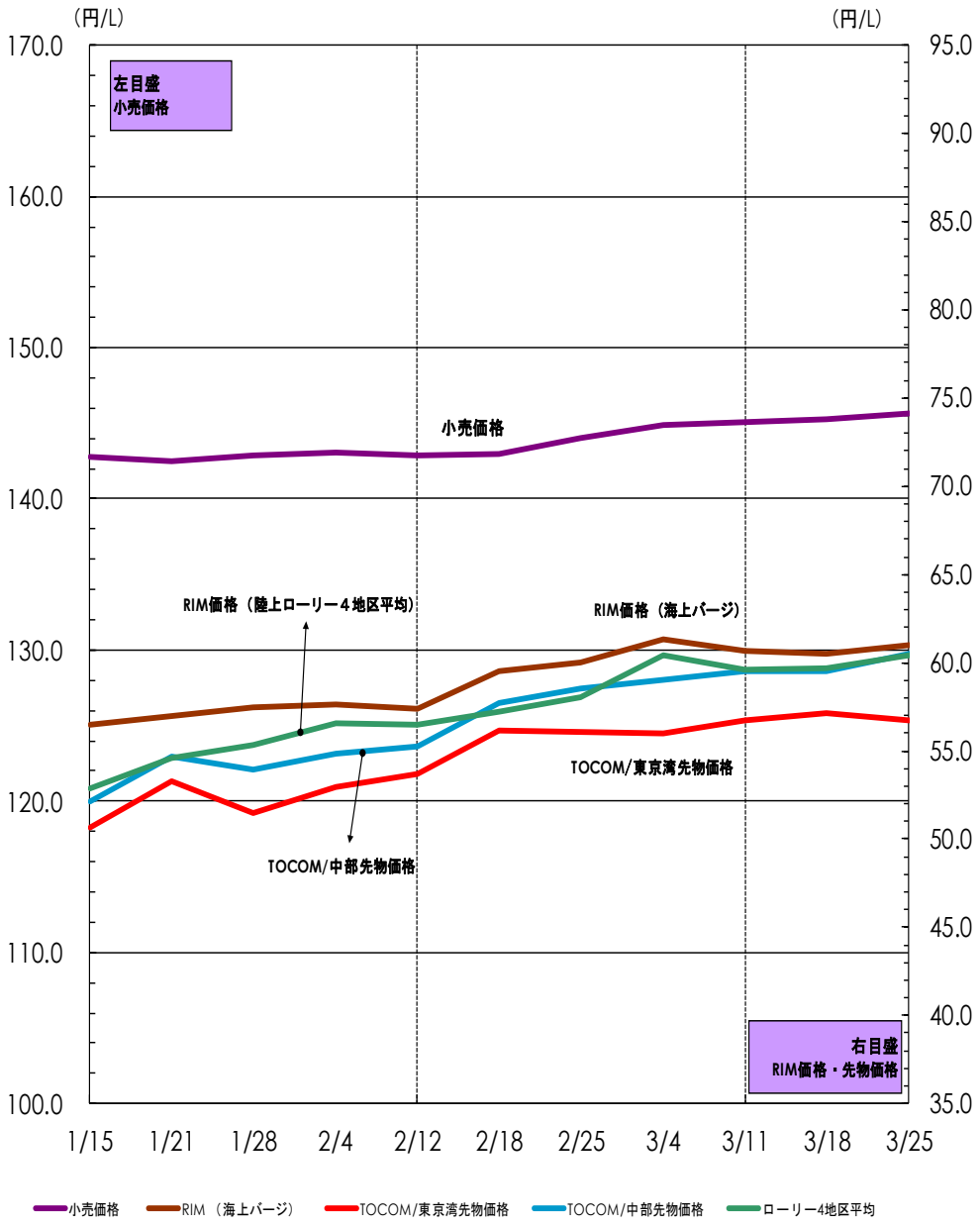
（単位：円/㌔㍑）

（資エ庁公表） [週動向]		今週　(3/25)	前週　(3/18)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	145.6	145.3	▲ 0.3	08/8/4	185.1
	灯油	89.9	89.7	▲ 0.2	08/8/11	132.1
	軽油	126.5	126.2	▲ 0.3	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/1/15　～　2019/3/25)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2019第1号）の公表は、4/5（金）14:00 です。

「セルフSS出店状況」（平成30年9月末現在）は、12月19日（水）14：00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。